

令和4年度 第4回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和4年10月17日（月）午前9時30分から正午まで
- 2 出席者 玉木健治委員（地域コーディネーター） 鍋田正明委員（中村町自治会長）
大橋典子委員（PTA会長） 本田道子委員（ありんこの里管理者）
望月雄司委員（静岡市大里生涯学習センター長）
枝 賢一委員（小糸製作所人事部企画課）
望月映延委員（JA静岡中央会広報部長）
校長、副校長、事務長、小学部主事、中学部主事、地域支援部長
- 3 場 所 会議室
- 4 校長挨拶
現在、学習棟トイレの改修工事中であり、今後も体育館照明のLED化、校舎外壁の改修等の工事を予定している。今年度、浜松みおつくし特支、伊豆の国特支の2校が開校した。
小学部1年生に東京都から転入生が来た。医療的ケアを要するお子さんで、本日より看護師が勤務となっている。
今年度はキャリア教育に力を入れている。中学部生徒・保護者が科学技術高校への終日見学を予定している。また、PTA研修として、保護者が沼津聴覚特支、中央特支、静岡城北高校への見学を実施している。保護者には子どもの進路先としての見方だけではなく、広い視野をもつきっかけとしてほしいと考えている。
静岡城北高校の生徒3人が全国手話パフォーマンス甲子園の予選を通過したため、静岡城北高校の校長から本校に手話指導の依頼があつて協力をした。出場した生徒からは、他校の頑張りに刺激を受けたことや手話をもっと学びたいと思ったことなどの感想をいただいた。今後もつながりをもてたらと思う。
- 5 説 明
学校運営協議会の意見に対する後期の取組 資料5～7ページを説明
学校評価（前期）集計結果 資料2～4ページを説明
- 6 協議テーマ「教職員が笑顔で元気に子どもと向き合う学校を目指して」～働き方を考える～
副校長 資料8ページの「2課題」に、3つの課題を挙げている。本日の協議では、皆様からこの3つ、特に教職員の意識改革について御意見をいただきたい。
- 7 協議内容
玉 木 働き方改革は、どこの企業でも取り組んでいると思うが、ハード面ソフト面どちらでも構わないので、どんな改善に取り組んでいるのか御紹介いただきたい。
校 長 「働き方改革」という言葉が出てきたのは電通社員の自殺のニュースが出てきた頃ではないかと思う。学校の働き方改革を進めるプロジェクトチームが出来た時、教員の声として授業の準備や子どものことを考えることは良いが、事務処理、会議、指導案の作成が苦痛であるという結果があつた。今、県立校では、「コクー」という出席確認を保護者とメールで送受信することで、教員の負担軽減を図ったり、パソコンの起動・シャットダウンで勤務時間の管理をしたり、外部からの電話は定時を

過ぎたら留守電に切り替えたりするなど、県としても対応を考えて取り組んでいる。だが、本校に県の人事班が訪問に来た時、未だに昔ながらの働き方を未だしているのではないかという指摘を受けており、大きな課題として残っている。

枝 学校の勤務状況を教えてほしい。

赤 堀 小学部の教員が10人いるが、授業の無い時間が1日に1時間程度である。授業準備や保護者への連絡ノートを書くなどしている。

枝 学年ごとでマンツーマンで指導をしているわけではないのか。

赤 堀 一人がずっと同じ学年の担当ではなく、いろいろな教員が担当している。

本 間 中学部の勤務は、小学部よりさらに1時間程長く、部活動が週に2回ある。

副校長 小学部より空き時間が取れている。時間帯によっては忙しい。

枝 先生が交代で子どもたちを見ていると思うが、どのような形で子どもの様子の引継ぎをしているのか。

赤 堀 いつもと違う様子が見られれば速やかに情報共有し、2週間に1度ある学部会でも共有している。また、学部の全教員に共有すべきことは、学部会を待たずにメールで確認したり、緊急の場合は部主事が全教員に伝えに行っている状況である。

枝 特別支援学校の生徒は普通校の生徒に比べるとケアが大事であり、情報共有が必要だと思う。普段の授業等で、それぞれの先生方が気付いたことをデータベースに打ち込んでいき、各自がいつでも見られるようにしていくと、メール送信等の手間や共有するまでの時間のずれが減るのではないか。

玉 木 小糸製作所さんでは社員の数がかなりいると思うがどのような形で情報共有をしているのか。

枝 ネットを介してだったり、5分10分でも集まって共有したりしている。

望月映 J Aも小糸の取り組みと変わらない。J Aでは衛生委員会に各所属長が集まって全職員の勤務状況を確認している。表に色付けされているため、誰が勤務時間を超過しているか一目瞭然であり、所属長が誰が何の仕事で残っているのかを把握して、説明するようにしている。また、職場のパソコンに、自宅からでもアクセスできるようにして働き方の形を変えられるようにしている。学校も仕事内容が従来通りなら、変わることができず勤務時間短縮は難しいのではないかと思う。今後は違和感のあるやり方を変えていくことが求められるのではないか。

玉 木 人によって勤務時間内できっちりできる人と苦手な人がいることは感じていた。ありんこの里ではどのような状況か教えてほしい。

本 田 19人いるので、「ほう・れん・そう」が大事だと思っている。職員を集めて朝、必ず情報共有をしている。朝8時から夕方5時までの勤務なので、5時には帰れるように今やらなくてもよい仕事は先に送るように声を掛けている。職員の有休も1カ月前には出してもらい、シフトを組んで休みやすい環境づくりをしている。

玉 木 限られた時間の中での情報の共有は難しいことだが、先日の幼稚園の送迎バスでの事故もあり、大事なことである。保護者から見るとどう考えているのか。

大 橋 先生方が放課後何をやっているのかは見えない。子どもの人数も少ないのでやるのが少ないのかと想像をすることもあったが、話を聞いていると人手の足りなさを感じた。人の数を増やせないのか。外部人材の活用、もしくは保護者にも声を掛けてもらえると良いのではないかと思う。また、保護者の立場からすると、学年が変わる時の引継ぎはしっかりしてほしいと思っている。

鍋 田 地域の役員の仕事は、役割分担をしても担当した人が新任で分からないと、慣れた人がやってしまい、共有が難しかった。それを改善するために、資料を残して「誰でもできる無理のない自治会」を目指して取り組んでいる。

- 玉 木 校内のそれぞれの学部で工夫していることは何かあるか。
- 校 長 それぞれの学部で改善している。学校全体としては会議は2時間やっていたものを50分に減らした。会議の参加者を減らすと、それを伝えるための労力が必要となってしまう。みんなが本当に知っておく必要がある内容なのかどうかを精選すれば、もっと変わっていくだろう。企業でも取捨選択をしていると思うが、本校は人数の少なさから全部知ろうとしてしまうところがある。良さでもあるが、知らなくても良いこともあると思う。中学・高校では部活動での勤務超過が指摘されている。本校では働き方をコントロールしようとする最終的には個人のスキルになってくる。
- 玉 木 システム的な改善はもちろんだが、個人のスキルの問題をどうしていくのか。昔は土曜日の放課後等で教員同士で話をしながら先輩から教えてもらっていた時代もあった。今の環境でどう向き合っていくのか。
- 校 長 パソコンの無い時代は、お便りや成績表を手書きすることに苦労していたが、今は個々にパソコンに向かって静かに仕事をしている状況である。わざわざ情報共有の時間を取るのではなく、自然に教員同士の会話の中で子どもの話ができることが理想だと思っている。
- 赤 堀 先程、鍋田様から「誰でもできる自治会」というキーワードをお聞きしたが、企業でもスキルアップの仕方を工夫されていることがあったら教えてほしい。
- 枝 正直、その人の経験によるところが大きいですが、担当部署のマニュアルを作っておき、その人がいなくてもできるようにしている。ただ、その人なら30分でできるところを1時間掛かってしまうことはある。
- 玉 木 改めて個のスキル、また集団としてのスキルが大事だと感じる。
- 望月映 パフォーマンス（成果）が見えづらいのではないかと。子どもが「無事卒業した」「進路が決まった」以外は自分たちの指導の成果がどう反映されたかが見えづらいので、今までのやり方を変えられないのではないかと。
- 玉 木 成果というと、教育相談ではどのような状況なのか。
- 小 林 自分自身はスキルというより根性で乗り切ってきたところがあり、中学校では朝5時から夜10時まで働いた経験もある。今は昔と比べるとだいぶ勤務時間が定時に近付いてきたが、授業準備の時間が充分に取れないと感じている。成果目標がはっきりと数値等で図れず、自分たちの仕事には限りがない。「子どものため」となるとキリが無いという現状があるが、企業ではどう捉えているのか。
- 枝 今、出たことは企業としても課題として抱えている。本来、限りは無いが目標はある。限られた時間とマンパワーで今年は何をやるか、次年度は何ができるかといったように、現状で何ができるかという視点で考えている。
- 玉 木 今、協議で出たことが黒板に書かれているが、このポイントを基にもう一度皆さんで話をしたい。
- 副校長 学校は、どこまでやれば良いのかがはっきりしないことで、個々に任されてしまうことになり、課題となっている。教職員は基本的に真面目で、子どものために一生懸命にやるのが美徳として今まで働いてきた方々が多い。そういった意味でベテラン教員の時間外勤務が多く、若い方は割り切るのが上手いのではないと思う。
- 校 長 先生方には休みに喜びを感じてほしい。以前、定時退勤を他校で実施した時に、先生方から感謝をされたことがある。仕事以外の時間を使って、ゆとりが大事だと思っている。また、家庭の事情により仕事の仕方を自分で考えなくてはいけない方もいる。その時に、遠慮なく周りに頼れる環境になるように心掛けている。
- 玉 木 学校は、楽しくやりがいがある職場であり、様々事情を抱えている先生方に対応で

きる環境であってほしい。

事務長 今、教育委員会が進めている働き方改革には行政職員は対象外である。事務室としても先生方の事務処理の軽減は大事で、できるだけサポートしたいと考える。だからと言って全部事務に回せばいいということではない。以前は、教師は世間知らずだとよく言われていた。事務処理を全て人任せにして子どもと向き合う時間と授業だけが仕事になった教師は学校しか知らない人になる。まともな文書も書けない常識の無い教師が子どもを教えることに不安を感じる。分業化も働き方改革の手立ての一つだが、大切な業務まで人任せにはいけない。行政職員は県立学校全体のプロジェクトチームが立ち上がっている。将来的な事務集中化も視野に入れて業務改善に取り組んでいる。

玉 木 最後に委員の方々から一言いただきたい。

鍋 田 自治会で役を振った時に、個々でできる・できないということが出てくるが、その時にサポートしていくことが自分の役目だと思っている。

大 橋 先生方に余裕が無いことは分かっており、教えなくてはいけないこともあるが、子どもが楽しくなる授業をしてほしい。仕事を抱えている方もいるので一概には難しいだろうが、PTA役員の仕事も保護者全員で取り組んでも良いのではないかと思う。姉の学校で家庭科の授業でミシンを使う時に、保護者の協力を得るなどした例もあった。

望月映 JAでは目標の数値化を言われている。農協なので、農家の売り上げアップを目標として掲げるが、こちらで出荷数を上げることはできないので、自分たちとしてできることを数値目標として設定している。

玉 木 学校経営計画でも数値化をしているとしていると思うが、なかなか難しいこともあるのか。

副校長 数値化された目標が今ある人や時間のリソースで達成可能なのかをもう一度見直すことも必要だと感じた。

枝 先生の仕事が分からなくて発言したこともあるが、「時間外勤務」についての問18については、時間外になってしまった仕事内容が何かを把握し、個人のスキルを上げるための研修をしていくと業務の見直しにつながるのではないか。

校 長 学校は評価をしても分析が弱いところがあるので、きちんと分析した上で検討していきたい。

本 間 学部の先生方に早く帰るように促しても、それぞれの先生方の思いもある。その思いを大事にしながら伝えていくことで、子どもたちを大事に指導していくことにつなげていければと思う。

副校長 今日の協議内容を、後期の学校の取り組みにつなげていけるようにしたい。

8 事務連絡など

今回は、令和5年1月30日（月）午前9時半から正午までを予定している。